

審査の結果の要旨

氏名 ジー シーヤン
Yi Siyan

本研究は数々の政治上の、そして社会の変遷にさらされているカンボジアの青年における、精神疾患と健康上のリスク行動の大きさを理解する上で非常に有益な研究である。本研究において筆者は、Battambang 県の青年期の学生における家族内暴力と地域社会における暴力の被害、抑うつ、薬物使用、および危険な性行動に関する基本データを得ることを目的とした。また、抑うつ、物質使用、および危険な性行動に対して、個人、家族、友人、学校、および地域社会という異なった領域における危険因子と保護要因が与える影響を調べ、下記の結果を得ている。

1. 本研究における学生の暴力、精神疾患のリスク、および健康上のリスク行動に対する暴露率の高さはこれらが深刻な問題であることを示している。全体の25%が家庭内暴力の犠牲になっており、36%は過去2年間に家庭内暴力を目撃していた。12%は地域社会において暴力をふるわれた経験があり、61%は過去2年間に少なくとも1回以上地域社会において暴力行為を目撃していた。メンタル・ヘルスに関して、参加者の2.4%は、抑うつ状態に分類された。物質使用に関しては、過去3カ月間に2.6%が違法薬物を使用し、47.4%は少なくともコップ一杯のビール、ワイン、酒を飲んでおり、9.9%は少なくとも一本のタバコを吸っていた。危険な性行動については、12.7%が過去3カ月間に性交したことがあると報告し、これらの性的に活発な学生のうち34.6%は過去3カ月間に2人以上の性交渉の相手があり、52.6%は最後の性交でコンドームを使用していなかった。
2. 構造方程式モデル分析の結果、抑うつの重要な予測因子として家庭内暴力の被害、地域社会における暴力の被害、友人の問題行動と物質使用の頻度が明らかになった。また、抑うつは片親か両親以外の保護者と生活していること、世帯所得が少ないこと、女性であること、といった社会人口統計学的な特性に有意に関連していた。しかしながら、調査した保護要因のいずれもこの研究に参加した青年期の学生の抑うつと有意な関連性は認められなかった。
3. 家庭内暴力の被害、地域社会における暴力の被害の頻度、地域社会での暴力行為を目撃した頻度、友人の問題行動の多さ、および抑うつ状態といった危険因子が物質使用の程度と有意に関連していた。また物質使用の程度は、家族との夕食の頻度や年齢、男性であることなどの要因に関連していた。

4. 危険な性行動の重要な予測因子は、家庭内暴力の被害、友人の問題行動の多さ、および物質使用の程度であった。社会人口統計学的な特性に関しては、危険な性行動は世帯所得が多いこと、年齢が高いこと、および男性であることと有意に関連していた。対照的に、調べられた保護因子のいずれもこの研究における青年期の学生の危険な性行動と有意な関連は認められなかった。

以上、本論文はこれまであまり研究されてこなかったカンボジアの地方都市において精神保健上の問題とそれに伴う健康リスク行動に苦しんでいる青年期の学生を対象とした貴重な研究である。筆者は、この研究を行うために大人数の青年を募ることに相当の労力を費やした。また、構成概念の大部分に標準測定方法を使用し、測定方法とそれらの信頼性について素晴らしい詳細を提供している。この研究は予防策の考案と実施にとって重要なものであり、カンボジアの青年期の学生の健康問題の改善に大いに貢献すると考えられ、博士号の授与にふさわしいものとする。